

東京国際芸術祭+日米カルチュラル・トレード・ネットワーク(CTN) / アーツ・ミッドウエスト  
国際共同製作


『アメリカ現代戯曲 & 劇作家シリーズ Vol.1 ドラマリーディング』



主 催: NPO 法人アートネットワーク・ジャパン


特別協賛:  アサヒビール株式会社

協 賛:  SHISEIDO /  トヨタ自動車株式会社 / **Panasonic**

助 成:  アサヒビール芸術文化財団 日米友好基金

協 力:  THE PLAYWRIGHTS CENTER  Guthrie Theater  Arts MIDWEST

後 援: 米国大使館

 平成17年度文化庁国際芸術交流支援事業

**2006年2月10日(金) - 12日(日)**  
**にしすがも創造舎特設劇場**

お 問 合 せ

東京国際芸術祭(TIF)

〒170-0001 東京都豊島区西巣鴨 4-9-1 旧朝日中学校

TEL.03-5961-5202/ FAX.03-5961-5207/ tif@anj.or.jp

**アメリカの劇作家たちは今、何を感じ、何を考え、何を表現しようとしているのか？**

**9.11、イラク戦争を経て、この間ますます保守化・内向化し、孤立していくように見えるアメリカ。東京国際芸術祭は、国家がどのような方策をとろうとも、アーティスト間の交流を絶やさないよう、アメリカのアート NPO との共同で、現代アメリカ社会を生きる劇作家たちを紹介する、3年間の継続プログラムを立ち上げます。**

本シリーズは、2000 年以降に書かれたアメリカ現代戯曲の翻訳、リーディング、シンポジウム、上演、出版までを視野に入れた、3年間の継続プログラムです。日米の現代演劇に関わる人々が、今、この時代をどのように捉えているのかを検証しながら、演劇が果たしうる役割を問うとともに、時間をかけて日米の新しい才能を育成することを目的とします。

### **孤立するアメリカ、届かないアーティストの声**

TIF では、2003 年度から 3 ヶ年かけて、中東地域(アラブ圏)と東欧圏に焦点をあて、アートが社会や政治、人々の生活と厳しい緊張関係を保つ作品を中心にプログラムしてきました。また、国際共同製作という形で、単に作品を招聘するだけでなく、共同で作品創作に取り組んできました。

そのような中、私たちは、9.11 以降のアメリカのアーティストたちの声に、耳を傾ける必要性を感じてきました。その背景には、メディアから一方的に伝えられる情報としてのアメリカから、そこに住む人々が今、何を感じ考えているのかがまったく伝わってこないという危機感とともに、TIF が築いているヨーロッパ・アジアのアート関係者ネットワークの中ですら、アメリカの現代演劇に関する情報がほとんど入ってきていないという現状があります。

### **日米のアート NPO による国際共同製作**

その問題について、TIF では米国ミネソタ州ミネアポリスをベースとするアート NPO、アーツ・ミッドウェストの CTN(日米カルチュラル・トレード・ネットワーク)と長期に渡って話し合いを重ね、アメリカの現代戯曲を紹介するプロジェクトを立ち上げました。同じくミネアポリスのプレイライツ・センター Playwrights Center(全米の新作戯曲を扱う劇作家センター)とガスリー・シアター Guthrie Theatre(国際的なプログラムに力を入れる全米有数の劇場)の協力を得て、ドラマリーディングから本公演、そして二国間の国際共同製作までを視野にいれ、3年間を目安としてシリーズ化することになりました。

初年度の今年、プレイライツ・センターと、ガスリー・シアターに「アメリカの現代社会を映し出す」新作戯曲 4 本の推薦を依頼、選ばれた作品を翻訳し、日本の演出家・翻訳家・ドラマトルク・俳優たちと読み解く、ドラマリーディングを行います。

## 作品紹介

『メイヘム』 MAYHEM (2000)

作:ケリー・スチュアート 翻訳:川島健 演出:宮崎真子(俳優座)

9.11 より1年前の夏、あるアメリカ人家庭での出来事。政治にも社会問題にも無縁の主婦が、活動家の友人や、戦場ジャーナリストとの出会いによって、今、世界で起こっている出来事に関心をもち始める。テレビで流れる戦場からのニュースと、家庭で夫や子どもを抱える閉塞感とのギャップ。その距離を測りかねながら、平和運動への猜疑、メディアで報道される暴力のリアリティの真偽を問う主婦と、それを取り巻く人々の姿が率直に描かれます。

### ケリー・スチュアート Kelly Stuart

スマートで鋭い観点から政治的な問題へ切り込んでいく作風で定評があり、96年『Demonology』でBest New American Play Award (Sun and Moon Press)を受賞。近年では、イギリスのロイヤルコート劇場や、ドイツのシャウビューネ劇場などでもリーディング公演が行われている。NY在住、コロンビア大学で劇作を指導している。

### 宮崎真子 Masako Miyazaki

演出家。俳優座所属。1991-93年文化庁芸術家在外研修員として渡英。R・ルパージュ、A・エイクボーンに師事。古典から現代劇、オペラまで幅広く、造形美に満ちた斬新な演出を展開。演出作品に『ヒトノカケラ』(新国立劇場)、『アンティゴネ』(シアターラム)他多数。最新作は俳優座劇場プロデュース『サマーハウスの夢』。

『アクト・ア・レディ ~アメリカ中西部ドラッグショー~』

Act A Lady, a mid western drag show in three acts (2005)

作:ジョーダン・ハリソン 翻訳:須藤鈴 演出:江本純子(毛皮族)

1927年、アメリカ中西部の小さな町で、3人の男が派手な女装でメロドラマを演じる。やがて、芝居と現実世界が混同し始め、登場人物の性別の境界線が曖昧になり、それぞれの素顔やアイデンティティーが明らかになる。GLBT(ゲイ/レズビアン/バイセクシャル/トランスセクシャル)問題の起源を辿り、男性の中に存在する“女”、女性の中に存在する“男”について問いかける意欲作です。

### ジョーダン・ハリソン Jordan Harrison

1977年生まれ。99年スタンフォード大学(英語学)を卒業後、ブラウン大学にて劇作を学ぶ。02年より、数々のアワードや奨学金を獲得し04年にはオフ・ブロードウェイ進出。その新作戯曲は全米の劇場でリーディングやワークショップが行われている。ミネアポリス在住。

### 江本純子 (Junko Emoto)

1978 年生まれ。立教大学在学中の 2000 年 9 月に劇団「毛皮族」を旗揚げ、以後全公演において作・演出・出演。主な出演作に映画『恋の門』『下妻物語』『姑獲女の夏』。2005 年には CD『すりガラスの 20 代』、DVD『毛皮族』DVD『銭は君』をリリース。

#### 「ベラージオ;もしくはメタル製のすべてのもの; もしくはおじいちゃんがパパを射殺させたとき～」

BELLAGIO; or Of all Things Made of Metal; or When Grandpapa Had Daddy Shot (2005)

作: マック・ウェルマン 翻訳: 川島健 演出: 中島諒人

1910 年代、近代文明の産業や機械を礼賛し、ファシズムと深く繋がっていたイタリアの「未来派」。主唱者である詩人マリネッティの輝かしいエピソードが羅列される第 1 幕に続き、第 2 幕では第二次大戦終了間近の退廃的な雰囲気の中でマリネッティとムッソリーニの食い違う会話が展開。複雑な時間構造の中で史実とフィクションが絡み合い、当時の未来派の興隆と衰退の様子が、現代資本主義社会の行く末に照射されていきます。

#### マック・ウェルマン Mac Wellman

アメリカ現代演劇を牽引する劇作家。1970 年代からニューヨークを中心に活動し、これまでに、3 度のオビー賞(オフ・ブロードウェイの上演作品を対象にした賞)を受賞、03 年には最も荣誉ある、"Lifetime Achievement"を授与される。その作品の数々には、挑発的で痛烈な風刺が込められている。現在、ブルックリン大学にて教鞭をとる。

#### 中島諒人 Makoto Nakashima

1994 年、シアターカンパニー・ジンジャントロプスボイセイを設立。利賀演出家コンクール 2003 で最優秀演出家賞を受賞。代表作は「かもめ」「ユビュ王」「ヘッダ・ガブラー」など。今春より鳥取に活動拠点を移し「鳥の劇場」としてリスタートする。

## 『セックスハビッツ・オブ・アメリカンウイメン』

The Sex Habits of American Women (2004)

作: ジュリー・マリー・マイアット 翻訳: 吉田恭子 演出: 中野成樹((POOL-5) + フランケンズ)

1950年代前半の性に関して閉鎖的な風潮の中、時代の価値観に苦しむ夫婦と娘のストーリーと、2004年のシングルマザーの母娘のインタビューが交錯する。愛、ロマンス、セックス、自己犠牲、欲求の抑圧など、心と身体、個人と家族の奥深課題が、時代を超えて浮かび上がり、女性の性と精神についての神秘性を描き出します。

### ジュリー・マリー・マイアット Julie Marie Myatt

ニューヨーク、ロサンゼルス、ミネアポリスの劇場を拠点に活動。『セックスハビッツ〜』は、プレイライツセンターにてリーディング上演、ガスリー・シアターで本公演化された。最新作“Boats On A River”では、同劇場の International Travel New Play Commissions(劇作家を世界へ派遣し、その経験を作品に活かすプロジェクト)でカンボジアに滞在、リサーチをもとに作品を書き上げた。

### 中野成樹 Shigeki Nakano

1973年東京生まれ。POOL-5所属。98年、自身がリーダーとなる演劇ユニット、フランケンシュタイナーをまったく別口に立ち上げる。2003年、中野成樹(POOL-5) + フランケンズに改名。“フランケン”では一途に翻訳劇をとりあげ、誤意識なる独自のスタイルで注目をあつめる。

## 特別プログラム

### TIFオープニングスピーチ

今年で12回目を迎える東京国際芸術祭の開幕にあたり、ディレクターが各演目の紹介とプログラミングの方向性についてお話しします。(10日(金)15:00の回のチケットをお持ちの方のみご参加いただけます)

### シンポジウム『アメリカの劇作家は今(仮題)』

来日する4人の劇作家を交え、アメリカにおける劇作家の現状と課題をディスカッションします。(チケットをお持ちの方は入場無料、シンポジウムのみ参加の場合は500円(予約不要))

## スタッフ

プログラム・ディレクション: 市村作知雄(TIF)、吉田恭子(アーツ・ミッドウエスト)、ボリー・カール(プレイライツ・センター)、マイケル・ディクソン(ガスリー・シアター)

作: ケリー・スチュアート / ジョーダン・ハリソン / マック・ウェルマン  
/ ジュリー・マリー・マイアット

演出: 宮崎真子(俳優座) / 江本純子(毛皮族) / 中野成樹((POOL-5) + フランケンズ) / 中島諒人  
翻訳: 川島健 / 須藤鈴 / 吉田恭子

ドラマツルク: 長島確

制作: 大久保聖子(NPO 法人アートネットワーク・ジャパン)

## 日米カルチュラル・トレード・ネットワーク (CTN)

日米カルチュラル・トレード・ネットワーク (CTN) は、米国非営利法人アーツ・ミッドウェスト\*1 のプロジェクトです。CTNは日米両国の舞台芸術、美術関係組織と協力し、両国間の芸術交流の長期的支援システムの確立、交流芸術プロジェクトの環境、教育、アウトリーチ面での充実を目指して活動しています。特に、従来行われてきた日米芸術交流を地理的に広め、内容を深め、支援体制とノウハウを多様化することを重視します。米国側の創立パートナー組織であるニュー・イングランド・ファウンデーション・フォー・ジ・アーツ\*2、ペンシルベニア・カウンシル・オン・ジ・アーツ\*3 の直接管轄地域とアーツ・ミッドウェストの担当地域である中西部を中心とした全米と日本各地における日米文化芸術交流の発展と充実を図ります。日本側の協力、支援団体は、国際交流基金、財団法人地域創造、芸術見本市東京 (TPAM)、東京国際芸術祭、大阪 21 世紀協会、JCDN (Japan Contemporary Dance Network)をはじめとする諸組織です。

\*1 ミネソタ州ミネアポリス市に本拠を置く非営利アーツ・サービス組織。北米内に 6 つある RAO (Regional Arts Organization) の一つで、25 年にわたり中西部の芸術文化の振興と、中西部地区の国際交流に尽力してきた。  
[www.artsmidwest.org](http://www.artsmidwest.org)

\*2 マサチューセッツ州ボストン市にある非営利アーツ・サービス組織。上述 1 の RAO の一つ。ナショナル・ダンス・プロジェクトなど、全米規模の助成プログラムを持つ。[www.nefa.org](http://www.nefa.org)

\*3 ペンシルベニア州ハリスバーグ市にある同州政府の文化評議会。<http://www.artsnet.org/pca/>

## 日米カルチュラル・トレード・ネットワーク これまでの活動と展望

2001 年 2 月、アーツ・ミッドウェスト、日米文化会館、ペンシルベニア・カウンシル・オン・ジ・アーツの代表者と、日本の舞台芸術関係者有志が、アメリカのアーティストの日本での公演、ツアーの可能性についての会議を開きました。話し合いの結果、日米舞台芸術交流をより広げ、内容を充実させ、双方向で行うための新しい考え方とシステムが必要であるという同意に達しました。アーツ・ミッドウェストは、この合意をもとに CTN を立ち上げ、以来、日米両国の参加、協力団体とともに日米間で様々なプレゼンテーション、意見、情報交換等を行ってインフラ整備とネットワーク開発の努力を続けています。

日本へは 2001 年より毎年舞台芸術見本市東京 (TPAM) へ米国代表団を率いて参加、これまでに 70 名を超える業界代表者を引率しました。また、大阪の舞台芸術見本市 (PAMO) にも参加して関西、山陰を中心とするネットワークを広げました。2002 年 3 月には、ペンシルベニア州の美術関係者の東京、名古屋、京都視察訪問をコーディネートし、翌 3 月には、同州ピッツバーグのダンスカンパニー、アタックシアターと、東京のコンテンポラリー・パフォーマンス・グループ、ニプロールの共同制作作品を共同プロデュースし、東京で初演しました。

米国内では 2001 年より毎年ニューヨークの APAP 会議 (全米プレゼンターの年次会議) 時に国際交流基金との共催、TPAM の協力を得て、米国プレゼンターを対象に、日本の現代舞台芸術に関するセミナーを行っています。また 2002 年 9 月より、毎年アーツ・ミッドウェストの主催する「ミッドウェスト・アーツ・カンファレンス」に、日本から舞台業界の専門家や批評家を招いて、基調講演やビデオ・プレゼンテーションを行い、中西部各地で 1000 人以上の関係者に日本の舞台芸術の魅力と可能性を効果的にアピールしています。

CTN は、日米の文化芸術交流事業に関し、舞台芸術の上演や美術作品の展示だけでなく、アーティストの滞在型共同制作 (レジデンシー・コラボレーション)、観客やコミュニティとの交流 (アウトリーチ) プロジェクトを特に奨励します。一例として、オハイオ・アーツ・カウンシルと共同で、和太鼓奏者の林英哲氏のオハイオ州における長期レジデンシー・プロジェクトを 2003 年より継続して行っています。

CTN は、国際社会で大きな影響力を持ち、非常に異なる文化を持つ日本と米国のアーティスト達が、芸術作品やプロジェクトの創造、上演、展示、様々な表現と方法を通し、両国及び世界の人々と交流することが、国際理解につながることを認識し、その機会と可能性を深め、広め、多様化することを基本信念とします。本プロジェクトは、日米友好基金より助成を受けて運営されています。

## プレイライツ・センター The Playwrights Center

全米の新作戯曲が集まる、北米有数の劇作家協会。1971年、アメリカの中西部ミネアポリスにおいて、5名の劇作家により創設される。演劇における芸術的長所や新しい視点の促進、劇作家の自発性、リーダーシップの育成、文化における多元的共存の実行、新進劇作家の発掘、劇作家と作品のサポート、また劇作家と観客をつなぐことを目的とする。



全米の新作戯曲から毎年数十本をピックアップし、プロの俳優によるリーディングを聞き、専門家や観客の感想や批評をうけて、戯曲をブラッシュアップしながら、その質を高めていくための場と機会を提供している。プレイライツ・センターでリーディングにかけられた新作戯曲のおよそ8割は、全米のリージョナル・シアターで本公演化される、という実績をもつ。

### TIFへの参加にあたって

### ポリー・カール(プレイライツ・センター/ディレクター)

The Playwright's Center 及び Guthrie Theater は、東京国際芸術祭 2006 への参加を嬉しく思います。

アメリカの劇場において「戯曲を書く」ということは、劇作家に数多くの挑戦を与えます。助成が縮小される中で、しばしば劇作家はより小規模な作品を書かなければならないというプレッシャーを感じ、また新しい作品を創る際の財政的なリスクから、劇場は慣習的な型や構造に挑戦する作品を避けるようになりがちです。

TIF に参加するために選ばれた4人の劇作家は、それぞれが独自の「Theatrical Voice」?として認められてきました。Julie Marie Myatt は、様々な層と独特の質感を持つ劇場経験を提示するために、マルチメディアを作品に統合します。Jordan Harrison の作品は、デザイン的な場面構成に熟練しつつかつ革新的であるという特徴を持っています。Kelly Stuart は知的で鋭い様々な観点から政治的な問題に取り組んでいます。この国のアバンギャルドの父の一人、Mac Wellman は、鋭い政治的風刺によって、観客を時に大喜びさせ、時に激高させもします。

これら4世代にわたる、選ばれたアメリカの「声」である彼らは、アメリカ演劇への貢献が認められ、多くの賞やフェローシップを受けてきました。彼らは、初めて日本で自らの作品が上演されることを誇りに思っています。

Polly K. Carl Ph.D

## 公演概要 Information

**公演日** 2006年2月10日(金) - 12日(日)

2月10日(金) 14:30 <TIFオープニングスピーチ> 15:00 A 19:00 B

11日(土) 12:00 D 14:30 C 17:00 B 19:30A

12日(日) 13:00C 15:00 <シンポジウム> 19:00D

終演後ポスト・パフォーマンス・トークあり

**会場** にしすがも創造舎特設劇場

**料金** 一般 1000 円 / 学生 800 円(当日要学生証提示、枚数制限あり、TIF でのみ取扱)  
4 演目セット券 一般 2,000 円 学生 1,500 円  
(全席自由・日時指定・税込)

**前売開始** 1月11日(水)

### チケット取扱

チケットぴあ 0570-02-9999/9966 (Pコード 366-203) <http://t.pia.co.jp/>

e+ (イープラス) <http://eee.eplus.co.jp> (パソコン & 携帯)

東京国際芸術祭(TIF) 03-5961-5202 <http://tif.anj.or.jp>

**お問い合わせ** 東京国際芸術祭(TIF)

TEL. 03-5961-5202 [tif@anj.or.jp](mailto:tif@anj.or.jp) <http://anj.or.jp>